

| 分野名 | 目的 | 実施項目 (例) ※2017 年度当初案 | 担当委員会 | 2017 年度実績 | 2018 年度実績 | 2019 年度実績 | 2020 年度実績 | 成果と課題 | |
|-------------|--|--|---|---|--|--|------------------------------------|--|--|
| 1. 技術・技能の向上 | ◇会員企業の技術力の底上げ ◇技術情報の水平展開・公開 ◇省エネへの貢献・コストダウン ◇環境配慮 (ものづくり) | ◇先端技術テーマ調査 ◇関連団体マップと団体間連携 ◇規格の体系化(維持・管理) ◇技能向上への意識 (表彰制度) ◇環境配慮バルブ登録制度の認知度向上・利用促進・制度改良 | 技術委員会 | 技術研修会の開催 (受講者数: 延べ 35 社 58 名) | バルブ初級研修 (会員向け) の開催 (受講者数: 延べ 136 社 277 名) | バルブ初級研修 (公開講座) の開催 (受講者数: 延べ 62 社 114 名) | バルブ便覧の改訂 (2021 年 6 月 15 日に第 2 版発刊) | 成果①: バルブの基礎を学べる場を設けて技術力の向上に寄与することができた。 成果②: 環境配慮に関しては基礎的な活動を行い、新しく出来た環境委員会に引き継いだ。 残した課題①: 技能向上を目的に表彰制度などを検討したが各社の状況を考慮すると標準的な仕組みづくりに踏み切れない。 残した課題②: 関連省庁・団体マップを作成したが、活用するまでに至らなかったため使用方法や利用目的の再確認を行う。 | |
| | | | 環境委員会 | 環境セミナーの開催 17 年度 ①金属材料メーカーの環境規制対応 (キッツメタルワークス)、②シール材メーカーの環境規制対応 (日本バルカー工業)、③環境配慮バルブ登録制度について (環境 WG) 19 年度 ①SDGs とパリ協定 (後藤敏彦)、②製品含有化学物質管理における情報収集の実務 (渡辺正春)、③LIXIL グループの環境活動 20 年度 ①企業を輝かせる SDGs の活用法 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング)、②日本ニューロンの SDGs 宣言 (日本ニューロン) | 環境活動調査の実施と環境活動報告の発行 環境活動調査 18 年度～20 年度に計 3 回実施 環境活動報告 18 年度版及び 19 年度版を発行。20 年度版は 20 年 12 月発行 | ①他団体の環境活動についてヒアリング調査 ②「chemSHERPA」利用促進に向けたシール材メーカーへのヒアリング調査 | 省エネ見学会開催 | バルブ製品アセスメントガイドライン改訂作業開始 | 成果①: 環境活動調査の実施により、初めてバルブ産業全体の環境対応状況を明らかにできた。 成果②: HP 連載の環境関連情報の周知により PV 数が増えた。20 年度の PV 数は対 18 年度比で約 10 倍。 成果③: 他団体の環境委員会との交流により、当会会員もセミナーに参加してもらい、情報収集の機会が増えた。 残した課題: 環境配慮バルブ登録制度の製品登録数が伸び悩んでいる (4 年間で 8 社 19 製品)。周知不足に加え、制度のしくみが会員に理解しにくいことが要因としてあげられる。 |
| | | | ISO/TC153 国内委員会 ISO/TC185 国内委員会 IEC 委員会 | 各種国際標準に対する日本意見の発信 国際規格の審議と国際会議への出席 (IEC: 3 回、ISO TC153: 14 回、ISO TC185: 3 回) 国際標準の JIS 規格化 | | | | | 成果①: 国際標準の JIS 規格化 IEC 規格→JIS 化: 3 規格 ISO 規格→JIS 化: 1 規格 成果②: 日本国内メーカーの不利益にならないための国際標準ドラフトの審議と意見発信を実施できた。 残した課題: 限られた人員での対応となっており、規格審議及び国際会議への参加に支障をきたす局面があった。更なるメンバー及び協力社などネットワークづくりが必要である。 |

| 分野名 | 目的 | 実施項目(例) ※2017年度当初案 | 担当委員会 | 2017年度実績 | 2018年度実績 | 2019年度実績 | 2020年度実績 | 成果と課題 |
|-------------|---|--|------------|--|---|---|-------------------------------|--|
| 1. 技術・技能の向上 | | | パルプ技報編集委員会 | パルプ技報の発刊(年2回) | | | | <p>成果: 時代にあわせた特集テーマでパルプ技報を発刊し、会員企業の技術意識を高めた</p> <p>残した課題①: 特集に沿う原稿執筆依頼先の選定</p> <p>残した課題②: 執筆依頼先のメリット確保の方法</p> <p>残した課題③: パルプ技報のあり方</p> <p>残した課題④: 購入数・配布先の拡大</p> <p>残した課題⑤: 幅広い会員企業の購読者に寄与できる特集テーマの探索</p> |
| | | | 水栓部会 | <p>9月 JIS B 2061(給水栓)改正</p> <p>2月 IoTに関する講演会開催:労働生産性向上のためのIoT活用・取組事例</p> | | <p>4月 JWWA B 107(水道用分水栓)改正</p> <p>4月 JWWA B 108(水道用止水栓)改正</p> | 3月 JWWA B 117(水道用サドル付分水栓)改正 | <p>成果: 国内、国際標準の維持・整備を実施し会員メーカーの技術力確保に寄与した</p> <p>残した課題: 関係法規準の改正情報の把握が遅れることがあった。早期に情報を把握するため、関係省庁・団体との更なるネットワーク構築・深化が必要である。</p> |
| 2. 人財の育成 | <p>◇人財モチベーションUP</p> <p>◇技術力向上</p> <p>◇離職防止</p> <p>◇技術伝承</p> | <p>◇高齢者の雇用確保</p> <p>◇ダイバーシティ(女性・障がい者)</p> <p>◇表彰制度</p> <p>◇人財交流(企業間交流)</p> <p>◇若手経営者グループ設立</p> <p>◇若手社員研修会</p> <p>◇次世代育成研修</p> | 人財育成委員会 | <p>女性活躍推進組織設立の検討</p> <p>若手経営者組織設立の検討</p> | <p>高齢者雇用促進セミナー開催(受講者数:11社15名)</p> | パルプ塾の開催(年2回) (受講者数:延べ114社289名) | | <p>成果: パルプ塾で原価計算や品質管理の基礎研修を実施し、幅広い属性の知識向上に寄与できた。</p> <p>残した課題①: 各組織で見学会・研修会を検討しており、内容の過不足が分からないため、棲み分けを確認し、体系化する必要がある。</p> <p>残した課題②: 表彰(マイスター制度)の検討を行ったが、必要科目の選定ができていない。</p> <p>残した課題③: 研修会では決まった企業から複数名の申込が多いため、会員企業数の裾野を広げるための活動が必要になる。</p> <p>残した課題④: オンラインで行う研修会が多くなることにより、ツールやテクニックに精通している人財を増やしていく。</p> |
| | | | パルプ女史PJ | | <p>見学会および交流会の実施</p> <p>他社事例の共有や有識者知識を学ぶ座談会、研修会の実施</p> <p>Webコンテンツ、業界新聞の活用によるPJ活動の周知(業界のイメージアップ)</p> | | | <p>成果①: 異業種および同業他社との交流の場を通じた、社会や自社の現状把握、事例の共有。</p> <p>成果②: PJ主催の座談会、セミナーで得た知識から、PJメンバー自らが女性活躍推進セミナーを自社で企画・開催、および情報展開の実施。(実施済1社、計画中2社)</p> <p>成果③: 工業会HP、業界新聞を活用したPJ活動の周知により、業界内外に広く女性活躍推進の取組みをアピールし、業界のイメージアップに貢献。</p> <p>残した課題: PJ活動を通じて得た”気づき”や”有益な情報”を、どのように自社で活かし継続的に働きかけていくかが課題。</p> |
| | | | 清流会 | <p>発足のためのメンバー募集の開始</p> | <p>清流会の発足</p> <p>メンバー企業の工場見学</p> <p>勉強会「気づき塾」の実施</p> <p>先輩経営者との座談会実施(年1回) (経営者としてのスキルアップ)</p> | | <p>セミナー「事業継続力強化計画認定制度」の実施</p> | <p>成果: 会の発足により若手経営者ネットワークを構築した。また、先輩経営者との座談会・勉強会および事業継続力に関するセミナーの受講により経営者としてのスキル向上を図れた。</p> <p>残した課題: メンバーの人脈づくり、スキル向上には寄与できたが今後の活動を工業会、パルプ業界にどう繋げるかが課題。</p> |

| 分野名 | 目的 | 実施項目(例) ※2017年度当初案 | 担当委員会 | 2017年度実績 | 2018年度実績 | 2019年度実績 | 2020年度実績 | 成果と課題 |
|------------|--|---|---------|--|-------------|--|----------|--|
| 3. 安全強化の推進 | ◇事故防止(製造・交通) ◇生産性向上 ◇企業(労働)安全 ◇作業・業務環境の改善 | ◇安全規格の体系化 ◇コンプライアンス ◇先進事例紹介(安全・5S・働き方) ◇表彰制度 | 安全衛生委員会 | 安全衛生委員会活動開始 | | JVMA 労働災害実態調査の実施 19年度に第1回調査実施。20年度調査は21年3月に実施予定 | | 成果：広く労働安全衛生意識の向上を啓発できた。セミナーや見学会への参加を通じてヒントを得た会員が、自社の労働安全管理体制の構築/改善に結び付けた事例も見られた。また、労働災害実態調査の実施により、業界の労働安全水準への問題意識が高まり、パルプ安心安全ネットワークの立ち上げにつながった。 残した課題：委員会設立当初に目標に掲げた、会員の労働安全衛生マネジメント導入推進については、セミナーを開くなどしたものの、会員がどの程度まで取組みを進めているかの把握ができていない。また、工業会独自の表彰制度および安全衛生大会の実施について具体的な検討はできていない。 |
| | | | | 労働安全先進事例見学会の開催 17年度 ①TOTO 小倉第二工場、②サンアクア TOTO(株) 18年度 ①YKK AP(株)、②(株)ナガエ、③(株)明石合銅 19年度 ①(株)福井製作所、②日本ニューロン(株) | | JVMA 労働災害実態調査報告書発行 20年8月に発行 | | |
| | | | | 労働安全セミナーの開催 18年度 ①ISO45001 理解のポイント & グッド・セーフティ・カンパニー制度(中防災)、②キットグループの安全衛生活動について、③安全で働きやすい職場づくりと社員の健康管理について(TOTO) 19年度 ①我社の安全に対する取り組み事例の紹介(明石合銅)、②ISO45001 認証取得の経緯&取得までの道のり(福井製作所)、③実際の事故事例をベースにした意見交換会 | | パルプ安心安全ネットワーク活動開始 21年3月1日時点で38社登録 | | |
| 4. 広報活動の推進 | ◇産学官連携の繋がり強化 ◇会員企業社員の士気向上 ◇パルプ産業の認知度向上 | ◇大学・職業訓練校への広報 ◇学生論文・技術力コンテスト ◇展示会出展 ◇ホームページ拡充 ◇ものづくり改善事例発表会 ◇パルプフォト五七五コンテスト ◇「適正取引ガイドライン」による普及・啓発 | 広報委員会 | 学生パルプ論文コンテストの開催 IWA(国際水協会)展示会へ出展 | 工業会パンフレット作成 | | | 成果：一般向けのイベントやコンテストを通じて幅広い層への工業会活動のアピールを行った。 残した課題①：会員企業のニーズに応えるのか、工業会事業を推進するために行うのか、広報活動の軸足が定まっておらず、周知先(例：企業、学生、団体など)の選定ができていない。 残した課題②：広報活動の効果測定が見える化できていない。 残した課題③：省庁、他団体への広報力強化が不足している。 |
| | | | | “ばるちゃん”の着ぐるみ活用 (ゆるキャラ GP、管工機材展、霞が関こども見学デー、会員企業イベント、他) | | | | |
| | | | | パルプの日新聞企画の実施(有識者との対談、会長インタビュー、他) | | | | |
| | | | | パルプフォトコンテスト五七五コンテストの開催(応募数：延べ1,902名、3,821作品) | | | | |
| | | | 工業会事務局 | | | 統計情報の見直し | | 成果①：ホームページの刷新に着手し、一般の方の目に触れやすい「パルプについて」のページづくり、会員企業が会合への出欠回答のしやすいフォームづくりを行い、パルプの認知度・会員満足度の向上を図ることができた。 成果②：会員企業にとって活用し難かった統計情報を、統計WGを通じて各部会の意見を集約し、ニーズに沿った統計情報の見直しを行った。 成果③：JVMA ネクストとホームページを連動させ、行事カレンダーや委員のエッセイを掲載し、会員企業や一般向けに工業会活動の見える化を行った。 残した課題：広報委員会との役割分担が明確にできていない点があった。 |
| | | 工業会ホームページの刷新 | | | | | | |
| | | JVMA ネクストの配信(毎月、月初に配信) | | | | | | |